謹賀新年

2016年―元旦

東京勤労者医療会　代々木病院

くらしと健康

発行 東京勤労者医療会 代々木病院 1部60円
〒151―0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1―30―7
TEL03(3404)7661
E-mail address　yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

リハビリ―自宅での生活をささえたい―

誰もが安心して地域で暮らしていけるように

新年おめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

代々木病院では退院後も患者さんや利用者さんが地域や自宅で暮らせるよう、入院中より自宅での日常生活について考えながらリハビリをしています。そして自宅に帰っても必要に応じて各種リハビリを利用していただいています。

代々木病院は、患者さんや利用者さんが住み慣れた地域で、安心して生活が続けられるように、地域の診療所や、訪問看護ステーションなどと連携しています。患者さん宅へ訪問診療に行ったり、病状が悪くなれば入院できる、必要に応じた対応ができる病院です。

日常生活の中で必要な動作を訓練

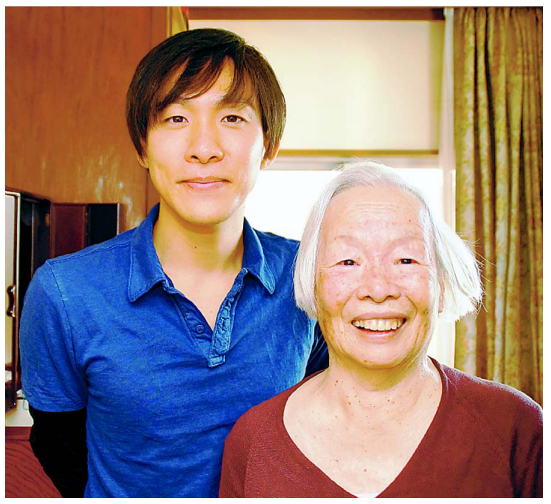
入院している時から、病気の治療だけを考えるのではなく、入院することで筋力が低下するなど、自宅での生活が困らないように注意しています。なかでも、リハビリは、直接、生活に必要な動作の訓練を行う重要な役割を果たしています。患者さんが、日常生活でどんな動作が必要なのかを考えながら訓練しています。退院が決まったら、ケアマネジャーさんや訪問看護師さん等、地域の事業所と一緒に合同の会議を持ち、患者さんの生活を準備します。

自宅で生活が続けられるよう援助

また、退院後もリハビリが必要な患者さんには、通所リハビリに通ってもらったり、自宅に訪問し行う訪問リハビリで続けることもできます。私達は、自宅に帰ってからも生活が続けられるよう援助する事が重要だと考えており、通所リハビリや訪問リハビリに、専任のリハビリスタッフを配置しています。

現在、代々木病院には50名以上のリハビリスタッフがいます。意欲的で元気な集団です。昨年も9名のスタッフが増えました。入院中だけでなく、地域で暮らす患者さんや利用者さんを支えるために頑張りたいです。

リハビリテーション部　木藤素子



⬆（上の写真）素敵な笑顔の林さん（右）と青山さん（左）
（右の写真）林さんの自宅でリハビリ中 ➡

はずむ会話　笑顔のお見送り

林桂英(りんけいえい)さん（渋谷区、85歳）は、左膝の変形性膝関節症で3年前に代々木病院に入院していましたが、リハビリを受け退院時には歩行器が使えるまでに回復しました。現在は代々木病院の訪問リハビリと通所リハビリをそれぞれ週1回ずつ受けています。

「いい方とめぐり合えて良かった」。林さんは訪問リハビリ担当の理学療法士・青山遥さんと入院中からの顔見知りです。林さんの兄弟のことや青山さんの子どものことなどで会話が弾みます。

帰る時には林さんがニッコリ笑顔でお見送り。「いい時間をくださって、ありがとうございました」。

患者さんの笑顔にささえられて

昨年入職した９名のスタッフ。
最後列右端が福井さん

患者さんの気持ちに寄りそうリハビリを

作業療法士　福井なぎさ

患者さんの気持ちを大切にして寄りそい、リハビリを提供していきたいです。

医師や看護師をはじめとした他職種と連携し、患者さんの退院後の生活に向けて考えながら行いたいと思っています。

地域に役立つ病院をめざします

代々木病院　院長　井上　均

明けましておめでとうございます。昨年も1年間、代々木病院を応援していただき、ありがとうございました。

代々木病院は回復期の医療、そしてリハビリテーション、透析治療、在宅療養支援の機能を持っています。この機能を引き続き差額室料をいただかず、無料低額診療制度事業を進めます。また、友の会の皆さんと協力しながら、地域の健康づくりや見守り活動、核廃絶の運動や憲法を守る運動に取り組んでいきたいと考えています。

私たちの法人は、今年5月1日に千葉県流山市に東葛病院を新築移転します。つくばエクスプレス・流山セントラルパーク駅前ですので、アクセスがとてもよくなります。代々木病院では行えない医療については、東葛病院を利用して頂きたいと思います。

社会保障費が削られる中、民医連の病院の経営は大変厳しくなっています。職員全員一丸となって、無差別・平等の医療である民医連医療、民医連の病院を守っていく決意です。

千駄の萱

今年はどんな年になるのだろうか。ではなくどんな年にするのかという覚悟が求められている、歴史の流れの中で▼高校3年生の頃はかなり真剣にどう生きるか考えていた。周りの大人たちから「まだ若いねえ。世の中そんなにきれいごとではすまないよ」と諭されていた。正義感に燃えていたから、思いを一言で表せることができないか考えた。そして得た結論が「戦争反対」▼大学を卒業し出会った民医連、その綱領に「われわれはあらゆる戦争政策に反対する」の文が。一生懸命考えたことがこれほど明確に、高らかにうたい上げた組織があったということに身体が震えた。その一員になったという喜びとともに▼そして今年。現実的な課題として立ちはだかっている。憲法九条を守ることが使命と思っていたが、アベ政権はもっと根源的な誤りを犯した。立憲主義の否定だ▼憲法擁護派も改憲派も立憲主義を守ることで手をたずさえようという動きに期待したい。今年の参院選から18歳以上の国民２４０万人も選挙権を得る。期待している▼土俵を1つにすること、今年国民に問われている大きな課題だ。（み）